

授業概要

哲学的な思考の源流は古代ギリシア哲学に見出すことができます。従って、西洋思想史をしっかりと理解するためには、古代ギリシア哲学から出発するのが王道であると言えます。本コースでは、古代ギリシア哲学に関する主要トピックを一つ一つ学びながら、哲学特有の用語法や問題設定に習熟していきます。細々とした知識を暗記するよりも、各トピックにおける根本的な考え方を学習することに重点を置きたいと思っています。第一回から第十二回にかけて、古代ギリシア哲学の主要思想についてお話しします。第十三回でヘレニズム哲学からルネサンス哲学に至るまでの古代ギリシア哲学の受容と展開を概観した後、第十四回と第十五回では、真理・認識・倫理・政治・芸術・科学といった諸問題をめぐって、近代の一連の哲学的思索が古代ギリシア哲学に対していかに応答したかを簡単に辿っていきます。

授業計画

第 1 回	イントロダクション/ソクラテス以前（ミレトス学派・ピタゴラス派・ヘラクレイトス）
第 2 回	ソクラテス以前（パルメニデスとその影響）
第 3 回	ソクラテス
第 4 回	プラトン（1）
第 5 回	プラトン（2）
第 6 回	プラトン（3）
第 7 回	プラトン（4）
第 8 回	アリストテレス（1）
第 9 回	アリストテレス（2）
第 10 回	アリストテレス（3）
第 11 回	アリストテレス（4）
第 12 回	アリストテレス（5）
第 13 回	古代ギリシア哲学の受容と展開：ヘレニズム哲学からルネサンス哲学まで
第 14 回	古代ギリシア哲学の近代哲学における意義（1）
第 15 回	古代ギリシア哲学の近代哲学における意義（2）/結語
第 16 回	最終試験

到達目標

（1）古代ギリシア哲学において、どのような立場がいかなる背景のもとに主張されてきたのかについて簡潔かつ体系的な知識を習得する。各思想の優れた点や批判すべき点も含めた思想史的意義をしっかりと理解できるようになる。

（2）古代ギリシア哲学がその後現れた様々な哲学思想にどのような影響を及ぼしたかという観点から、哲学史の大まかな流れをつかむ。これによって、表面的な知識の寄せ集めに留まらない西洋思想史の本質的な理解を可能にする。

（3）授業を通じて心に芽生えた哲学的な関心を各自が大切に育てつつ、自らの興味に沿って今後さらなる探求を行っていくための土台を築きあげる。

履修上の注意

予備知識は特に必要ありませんが、高校の倫理の教科書やネット上の情報源などを用いて、コース開始前に西洋思想史の概略を掴んでおくと、理解度が格段に高まるはずです。原則として毎回出席し、集中して聴講してください。授業自体は通常の講義方式で行いますが、ディスカッションに重点を置くことで、主体的な参加を促すつもりです。授業中や授業後の質問や反論を大いに歓迎します。考えることの喜びを知る機会となることを切に願っています。

予習・復習

毎回授業終了後に、学習内容を総括するキーワードをいくつか与えるので、自宅等で確認しておいてください。本コースがグループ分けの対象になった場合、予習・復習のやり方を変更する可能性があります。

評価方法

学期末試験 100%とします。

テキスト

適宜プリントを配布します。意欲のある学生には別途参考文献を指示します。